

Title	私の図書館の思い出
Author(s)	山崎, 理恵
Citation	ぱびるす 54 号(2012 年春), 2012, 1p
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=3656
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

私の図書館の思い出

109P109 山崎 理恵

図書館の職員の方から、「よく見かけるね」ということで執筆の声が掛かりました。私は読書家でもなく、パソコンにかじり付いていたのでもありません。図書館の思い出と言っても、特別何か一つに熱中していた記憶はありませんが、よくそこに居たことは確かです。私にとって図書館は、自分の部屋のように落ち着け、コンビニのように便利で発見のある場で、何よりも居心地の良い空間でした。

私は、講師の方の話は面白いので、なるべく多くの講義を取っています。しかし、昼間に空き時間が発生するため、有効活用したいと考えました。勉強は、放課後のアルバイト後や翌朝に、家で制限時間を気にしてでは集中できるものになりません。そこで、あえてパソコン席も空きがある1時限目の時間に大学に来て、図書館に立ち寄ります。図書館に居れば、教室まで数分で行けるので、講義に遅れる心配もありません。時間を気にせず、課題のための充実した時間が持てます。図書館に半ば強制的であるかもしれませんが居ることで、学ぶ姿勢が身についたように感じます。

また、図書館を自分の「本棚」として活用できるのも魅力です。脳は古い情報を捨て、新しい情報を入れると聞いたことがあります。いつか読もうと思って本を買うよりも、気になった本もちょっと読んで返し、多くの本が読めるのも魅力です。2階の雑誌の前を通ってみると、普段は手に取ることのない雑誌に興味を湧くこともあります。図書館は新しい情報源とともに、新しい自分の発見の場にもなります。

これを書くきっかけは、図書館の職員の方でしたが、定期的に通うことで生まれた人間関係も私を明るくさせてくれました。

最初は講義前の時間つぶしのように立ち寄っていた図書館でしたが、次第に面白さを感じてきました。大学生活で、自分の部屋のように過ごすようになり、世界も広がり、成長できたと思います。

(政治経済学科 4年)